

【22_283技術系メルマガ】MAは生き物？

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

現在、実施中の新講座の中で 僕が普段から説明しているMAをベースとした実践事例を数日に1回のペースで別途メールにして共有し始めています。

参加いただいている皆さん熱心で、色々な質問をくれるのですが特に多いのは、「エントリーするか、見送るかの判断に迷う」というものです。

これは、僕の示せる答えとして『自分で基準を決め、それに従うしかない』となるのですが例えば僕の場合、エントリーの引き金を引くセットアップが『M15/40-50MAとM5/100MA 両方が接触した時』としています。

なので、どちらかのMAが接していない場合は、「プルバック不十分」と言う事で条件に合う所に来るまでは様子見となるわけです。

そんな中、昨日の値動きでひとつ質問された内容というのが、今回のメルマガのテーマです。

それは、「後で見たら、綺麗なセットアップだったのに何故見送りなのか？」

何の話かというと、昨日のユーロ円ショート(日本時間18:15頃)なのですが僕は『エントリーの条件を満たさなかったので見送り』という判断。

ですが、出来上がったチャートを見ると

上に書いた僕のエントリー条件であるMAの接触が達成されているように見えます。

▼EURJPY全体チャート▼

https://kuro-gaki.com/2022_dayt/chart/221006_EURJPY_S.png

ではここで、もう一つ画像を見て欲しいのですが

これは、僕が『エントリーを見送った直後』と、『翌朝』にそれぞれキャプチャした

EURJPYのM15とM5足のチャートを上下に並べたモノになります。

上下で見比べてみてください。

▼M15- M5足の拡大チャート▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/chart/221007.png

しばらく値が動いた後のチャートでは、M5足の100MAにギリギリ触っています。

一度確定した高値安値が変わることはあり得ないので、要は時間経過とともに

MAの位置が(本当に僅かですが)変わってくる場合があるんですね。

なので、あとから見れば「これ入れれば良かったじゃん！」という結果論的な話がでてきてしまうのです。

ですが、そもそも当時の現場判断では、『来たるべきMAまで届かず落ちた』のは事実であるわけですから

そこでエントリーするのは自分のルール(型)とは違うので、見送りで良いのです。

このようなことはそこまで頻繁には起こらないですが、時々こういった事象があり

結果として見送るべきだったのか、エントリーすべきだったのかという見解が分かれることもあります。

水平線等と違って、MAというのはこのような可変的な要素があるパラメータなので

あまりカッチリとした厳密な判断軸を委ねるのではなく

「この辺まで来たから、そろそろ切り返しのパターンを見て行こう」と言ったように

目安として捉える情報だということを覚えておくと、より視野が広がり、良い意味で柔軟な思考ができるようになると思います。

MAが生き物？ なんのこっちゃ？ と、思われたかもしれませんが

こういった摩訶不思議な事が起こる場合もあるよ、という事例を紹介させて頂きました。